



発行
松ヶ崎社会福祉協議会

発行責任者
宇佐美 賢 一

企画・編集
広報委員会

卒業する松ヶ崎っ子たちへ

京都市立松ヶ崎小学校 校長 服部 恵 介

『皆さんは、四季折々に趣を変える自然豊かな山々を背景にした歴史的・文化的情緒あふれる松ヶ崎で育ち、ご家族の方々、地域の皆様方に温かく見守られながら、創立百五十周年を迎えた伝統ある松ヶ崎小学校で、素敵な仲間とともに、多くのことを学んできました。皆さんがこれまで努力してきたことは、必ずやこれからの人生においても大きな力となることでしょう。』

口にするれば、たった一秒で終わる「ありがとう。」「ごめんなさい。」を大切にしてください。たった一言が人を傷つけた一言が人の心を温めます。言葉を大切にしてください。実は未来は今日の中にあるかもしれません。わずかな時間でも大切にしてください。今日を、その瞬間を大切にしてください。共感して人の話すことに心を傾けて聴くことを大切にしてください。お互いにそっぽを向くと、地球一周分の距離になってしまいます。人との関係を大切にするため、想像力を働かせ、自らを振り返ることを忘れないでください。ゴールまではどんな道を通ってもいいのです。失敗を恐れしないでください。何もしない者は失敗もしないのです。動き出せば景色は変わります。そして、感動する気持ちを持ち続けてください。ここに示したすべてのことを、これからも大切にしてください。

いつの日か、あなたたちは未来の教

科書に載るかもしれません。この素晴らしい国、日本を今まで以上に創り上げていく。その主役はあなたたちです。

泣き言や不満を言っている暇はありません。私たちは、それほど皆さんに期待を寄せています。さあ、堂々とこれからの一歩を踏み出してください。

最後に…出会いは奇跡です。友と笑い、友と涙した日々を決して忘れないように。松ヶ崎小学校はあなたたちのふるさとです。いつでも訪ねてください。いつまでもあなたたちの学校です。これからも応援しています。卒業おめでとう。』

松ヶ崎社会福祉協議会の皆様をはじめ、地域の皆様におかれましては、日頃より松ヶ崎っ子たちのために、多大なるご支援とご協力をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。皆様の温かいご支援が子どもたちの成長に大きく寄与していることを日々実感しております。子どもたちは貴重な経験を積み重ね、豊かな人間性を育んでおります。子どもたちは、これからの地域を創る大人になる宝です。どうかこれからも、温かく、時には厳しく見守り、支えていただきますようお願い申し上げます。今後とも、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



まつちやきネットワーク

(MNW)のご紹介

まつちやきネットワーク 会長 山田 勉

松ヶ崎地域の皆様、日頃は大変お世話になっております。

二〇二四年度より松ヶ崎の地域団体に加えて戴きました「まつちやきネットワーク(MNW)」は、松ヶ崎の文化の継承や地域住民とのより深い交流を目指して活動するボランティア団体です。二〇一一年に小学校の「おやじの会」のOBが発足させ、現在、地域を盛り上げようと約三十名が参集しております。

発足のきっかけは、当時「おやじの会」で子供達の各種イベントを企画、実行していましたが、子供達が卒業すると親御さん達との縁が無くなることと「もったいない」と感じたことです。そこで、屋台も撤退し、寂しくなった新宮神社の秋祭りを、「子供達が楽しめること」をスローガンに、二〇一二年から二〇二三年までコロナ禍を除き、手作り屋台を出店し盛況を得ました。二〇二四年からは「松ヶ崎フェスティバル」にも協力しております。

また、文化継承では二〇二三年から立正会さんと連携し、護摩木の販売や薪上げなど妙法の点火奉仕を行っています。

今後とも、私たちの活動へのご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



第二十五回

敬老会

十一月二日(金)

十月になっても暑さが続き、ようやく秋めいてきた十一月一日に、北山モノリスにて、「第二十五回敬老会」を開催いたしました。総勢九十八名の参加者がありました。

左京区長 森元正純様、自治連合会会長 岩崎猛彦様のご祝辞を賜り、左京区社会福祉協議会事務局長 木俣紀子様の乾杯のご発声にてお食事が始まりました。会話も弾みお料理を堪能していただけたようでした。

また昨年好評の「音の風」様によるミニコンサートで、楽しいお話と素敵な音楽を聞かせていただきました。リクエストタイムでは、あちこちから声があがり、一緒に歌い、舞台上で演奏をバックに歌を披露される方もあり、大いに盛り上がりしました。

美味しいお食事と楽しいコンサートで、ご参加の皆様にとっても喜んでいただけました。



松ヶ崎

フェスティバル

十月十二日(土)・十三日(日)

例年、夏に開催されていた自治連合会主催の夏祭りですが、本年は「松ヶ崎フェスティバル」として、十二日にお祭りが開催され、翌十三日に区民運動会が行われました。お祭りでは、夜店の食材準備と下ごしらえ、ゴミの分別指導を、区民運動会では準備を手伝いました。



児童館まつり

一月十八日(土)

一月とは思えないほど暖かい日に、乳幼児親子や小学生とその保護者など総勢一〇人余りの参加者がありました。

遊びのコーナーでは、的当て・おみくじ・ボールで運だめしゲームなどを楽しみました。しばらくの間、中止していた飲食の販売が復活して、ホットドック・おにぎり・ジュースなどの販売があり、豚汁は当委員会が準備をして振舞いました。大鍋で炊いた豚汁はとても美味しいと喜んでいただけました。午後からのステージ鑑賞は、京都工芸繊維大学奇術部の学生さんによる「ジャグリングショー」でした。布やボールを使った巧みで素早い動きに子ども達は感激しながら見入っていました。



健康 すこやか学級



今年度は、昼食をはさんでの会を四回、午前中のみのを三回、合計七回開催しました。毎回十数名の参加がありました。

そのうち三回は、松ヶ崎小学校のふれあいサロンにて、京都博愛会病院の看護師・新盛理栄様、京都博愛会保育園の古谷香里先生、山本恵都子先生、山岸美美子先生にご指導いただきました。博愛会の方々には、コロナ禍で数年中断して交代はされましたが、平成十四年に健康すこやか学級が始まって以来ずっと

とお世話になっています。看護師さんには血圧測定や健康に関するお話をしていただきました。先生方には一緒に歌ったり、工作を教えていただいたり、健康すこやか体操を指導していただいたりしました。

また、午前中のみのは、堀町の「一般社団法人つなぎ」にて、昭和歌謡を歌う会、エンディングノートについての講習、お口の健康に関するお話がありました。

来年度も開催予定です。ご参加いただくには事前に登録が必要です。詳しくは当会委員の氷室由美子までお問い合わせください。

第三回 九月十三日(金) 十一時～十四時三十分 松ヶ崎小学校

健康講話「熱中症のメカニズム」・工作(フォトフレーム)

第四回 十一月八日(金) 十一時～十四時三十分 松ヶ崎小学校

健康講話「喉トラブル」・工作(クリスマス飾り)

第五回 十二月十三日(金) 十一時～十四時三十分 松ヶ崎小学校

健康講話「座って出来る体操」・工作(祝箸、ランチョンマット)

第六回 一月十日(金) 十時～十二時 つなぎ

人生会議「エンディングノート」

第七回 二月十四日(金) 十時～十二時 つなぎ

昭和歌謡・みんなの歌



お申し込み・お問い合わせは
氷室 まで

TEL 090-7877-2718



松ぼっくりを使ってクリスマス飾りを作りました。



当会委員の上木紀介が落語や小話をしました。楽しい話に皆様笑われました。



朝から雪が降っていましたが、お集りいただき、エンディングノートについての説明を熱心にお聞きくださいました。



お正月用に箸紙とランチョンマットを作りました。簡単に作れるものでも華やかになりお正月気分が盛り上がるので、皆様に喜んでいただけました。



クリスマスツリーを飾り、クリスマスソングを歌いました。



令和6年度の事業

ちよつとしたお手伝い

ちよいボラ

昨年秋から受付を開始したちよいボラ(ちよつとしたお手伝い)。二月末の時点で数件のお申し込みがあり、そのうち三件に対応しました。長時間かかるもの、大掛かりなもの、七十五歳以上の高齢者のみの世帯以外の方はお断りし



ました。

ガレージ清掃、トイレの換気口の外れたフタの取り付け、庭木の伐採をしました。

三十分くらいで行えるちよつとしたお手伝いがございましたら、お気軽にご連絡ください。一緒にボランティアをしてくださる方もあわせて募集しております。

ちよいボラ事務局
佐藤 佐

TEL

080-8532-7774

社会福祉協議会
委員募集のお知らせ

松ヶ崎社会福祉協議会では私たちと一緒に地域活動をしてくださる新規委員を募集しています。ご興味ある方のご参加をお待ちしています。

(宇佐美 賢一 090-6322-3441)

ご報告

この度、永年の功労者として、京都市社会福祉協議会会長表彰、左京区社会福祉協議会会長表彰、当会委員八名が受賞致しました。

草木の新芽が萌え出る頃となりました。

今年度も各種事業を無事に行うことができ、ご参加の皆様に楽しんでいただけたことと思います。はじめ

の試みとしては、ちよいボラをいたしました。小さなお手伝いですがお役に立てたかと思えます。

さて、近年各地で自然災害が増えています。いざという時に慌てないよう、個人でも災害に備えて防災セットの用意や避難場所の確認、家族との連絡方法など、備えが必要かと感じます。また社協としても、各種団体と連携し、災害時に皆様にご協力できる体制を整えておきたいと考えています。

社会の様々な変化もあり、社協の事業について、よりよく見直していきたいと思えます。

コロナ禍以降、広報紙は年一回の発行でしたが、事業も増え、年二回の発行に戻しました。

また皆様と笑顔でお会いできるのを楽しみにしています。



印刷所

有限会社 章美プリント

〒六〇一八四四一

京都市南区西九条南田町四一

TEL 〇七五―六九一―一六二四